

## アパレル教育におけるパーソナルコンピュータの応用 (第3報)

—コンピュータ利用によるアパレル教育の効果とその評価法—

○山田知里\* 末久真理子\* 綾田雅子\* 佐藤悦子\*\* 小林茂雄\*\*\*

(\* 共立短大, \*\* 上越教育大学, \*\*\* 共立女大)

<目的>アパレル教育においてコンピュータシステムの導入が盛んに行われているが、その活用方法は多種多様であり系統別に検討された導入には至っていない。また、その教育効果に関する評価は主観的であり客観的評価の方法は確立されていない。第3報ではコンピュータシステムを取り入れた授業実践で、経時的に学生を対象としたアンケート調査を行い、データの統計的分析を基にその教育効果を評価する方法の確立を目指す。

<方法>アパレル関係の実験・演習等へのコンピュータシステムの導入計画を立て、アンケート調査を行った。アンケートの評価項目はコンピュータシステム導入の効果を考慮しアパレルに対する興味・理解(知識定着の程度)、コンピュータに対する興味・使用経験に関する質問項目をグループ分けして設定し、評価は4段階尺度を用いた。調査対象者は短期大学生(18歳から21歳)193名とし、コンピュータシステムを用いたアパレル関係の実験・実習(3科目)とその比較の対象としてコンピュータシステムを用いない講義(1科目)を選択した。またアンケートの調査時期は教育効果の推移を示せるよう①授業開始時期②移行時期③コンピュータシステムを使用した直後の時期の3回に設定した。

<結果>得られた評価を得点化し統計処理を行った。コンピュータシステムを導入したアパレル関係の実験と用いない講義に対する興味・理解度を比較した結果、理解度に関してはコンピュータ導入の効果があまり見られないが、興味付けにおいては効果が現れた。アパレル教育へのコンピュータシステムの活用はあくまで理論習得のための補助的役割にすぎないが、学生のアパレルに対する関心を深め、従来の講義形式の授業内容・方法とは異なる学習の効果が期待できると思われる。